

「社会につなぐ」「子どもの成長の機会を奪わない」

- 私から皆様にお話させていただき、せっかくの機会でありますので、少しお時間をいただいて、ここ数年、私が抱いてきた問題意識を二つ、お伝えさせていただきます。
- 一つ目は、「**子どもを社会につなげているか。**」ということです。
- 昨年度、札幌市教育委員会が、札幌市立高校の全生徒にアンケートを行っています。その中に、「これからの社会を生きていくあなたは、どのような力を身に付けていくことが重要であると思いますか。」という質問項目がありました。圧倒的に多かった回答は何だったと思いますか？
- それは、『コミュニケーション力』です。そう回答した多くの生徒が、「社会の中で生きていくためには、考えの違う人とも折り合いを付けていく必要があるから。」といった主旨のことを言っています。
- また、経済産業省が行った調査では、企業を対象に、「学生に対してどのような力を求めますか。」という質問をしています。ベスト3は順に、「主体性」「コミュニケーション力」「粘り強さ」でした。ちなみに、「専門知識」と回答した企業は全体の1%にすぎません。
- 子どもたちが、市民社会の一人として生きていける力を育てていくことが学校の大きな役割であり、そのためにも、学校は、皆さんと手を携えながら、子どもを社会につなげていくんだということを、より意識して教育活動を進めていく必要があると考えています。
- 問題意識の二つ目は、「**子どもの成長の機会を奪っていないか。**」ということです。
- コミュニケーション力を例に話を続けます。コミュニケーションはドッジボールではなく、キャッチボールでなければなりません。ドッジボールでは相手を倒すために受けにくいボールを投げますが、キャッチボールでは相手が受け取りやすいボールを投げます。相手が受け取れないボールを投げたり、または相手の投げたボールを受け取れなかったりでは、コミュニケーションは成立しません。
- ここで大切なことは、キャッチボールはキャッチボールをせずして、上手くはならないということです。つまり、コミュニケーション力は、コミュニケーションを図る経験をたくさん積み重ねることをせずして、高めることはできません。
- 人はそれぞれ違いますので、意見が対立することがあります。嫌いな人や合わない人がいても当然ですが、そうした人とやり取りしなければならぬこともあります。実は、そんな時こそ、相手の投げたボールをどうキャッチするか、相手にどんなボールを投げるかをよく考えるので、コミュニケーション力を高める良いチャンスといえます。
- でも、私が考えるのは、そうしたチャンスを大人が奪っていないか、ということなんです。意見が対立しているときに、すぐに仲裁に入ったり、意見をまとめたり、嫌いな人や合わない人とやり取りしなければならぬときに、やり取りしなくてもいいような環境をつくるなど、子どものために良かれと思ってやっていることが、実は、子どものためにはなっていないことがあるのではないのでしょうか。
- 大人が子どもにどう関わるかは、もちろんその時々状況を見極める必要がありますが、もっと子どもに委ねていい場面がたくさんあるような気がしています。
- 「主体性」や「粘り強さ」についても同じことが言えるのではないのでしょうか。
- 以上、私の問題意識として、「子どもを社会につなげているか。」「子どもの成長の機会を奪っていないか。」というお話をさせていただきましたが、これは本校の教育活動を進めながら、常に自問していることでもあります。皆様はどう感じられたでしょうか。
- ぜひ、家に戻ったら、お子様の声を聴いてほしいと思います。「これからの社会を生きていくあなたは、どのような力を身に付けていくことが重要だと思う？」と質問したら、どんな答えが返ってくるのでしょうか。